

令和7年度 二軍戦細則

1. 出場資格

- (1) 基本的には、当連盟規約、リーグ戦規約の出場資格に従うものとする。
- (2) 当連盟に本年度登録されている者で、登録年度数および在籍年度数4年以内の者を資格対象とする。但し、医学部系・歯学部系・薬学系大学または同一大学の医学部・歯学部・薬学部においては、登録年度数及び在籍年度数6年以内、短期大学については2年以内とする。
- (3) 文科系部員に関しては以下の制限の下、出場を認める。
 - ① 本年度の個人戦または新人戦に出場していること。
 - ② (女子のみ) 文科系部員の単複重複は認めない。
- (4) 本年度行なわれた個人戦、新人戦の本戦またはリーグ戦に出場した者は、今大会の出場資格を有さない。ただし、本年度行なわれたリーグ戦において、シングルスのみに出場した者はダブルスのみに、ダブルスのみに出場した者はシングルスのみにそれぞれ出場可能とする。また、本年度行なわれた個人戦においても、シングルスのみ本戦に出場した者はダブルスのみに、ダブルスのみ本戦に出場した者はシングルスのみにそれぞれ出場可能とする。
- (5) ダブルスのペアを解消した場合も、本年度行なわれた個人戦本戦、リーグ戦にダブルスで出場選手は、二軍戦のダブルスの出場資格は有さないものとする。
- (6) (1)～(5)の内容を含んだ「二軍戦出場資格保有者リスト」(別紙参照)により、今大会の出場資格有無を判断する。

2. 試合形式

3セットマッチ (各セット6-6タイブレーク)

男子: 複2ポイント 単3ポイント

女子: 複2ポイント 単3ポイント

3. 使用コート

- (1) 原則、コート選択権のある大学に一任する。
- (2) コート選択権は、A、Bに関係なく、本年度のリーグ戦の結果、順位が高い大学がもつものとする。
- (3) 対戦は、その対戦すべての試合で同一サーフェスを使用する。但し、天候や試合進行状況に応じて、コートレフリーと両校主将・主務の話し合いの上で使用面数を増やすことが望ましい。
- (4) 同一大学で2チーム以上が参加し、両チームとも同じ会場で試合する場合も同日開催を認める。

4. 使用球

- (1) ボールは2又は4個入り缶のダンロップフォートを用いる。
- (2) ボールチェンジはファイナルとする。
- (3) 試合中のパンク・ロストについては、ファーストセットの2ゲーム目までは(ウォームアップ含む)ニューボールとし、それ以外はセットボールと交換する。但し、セットボールがない場合はニューボールと交換して良い。ボール交換は必ず2球とも行う。
- (4) 日没・水没となった場合には、選手が1球ずつ保管する。但し、両者の合意があればニューボールと取り替えて良い。

5. 試合

(1) 試合開始時刻

男女共に、複を午前9時00分、試合コートが遠隔地にある場合のみ、午前9時30分又は10時00分を試合開始時刻とすることを認める。

(2) オーダー交換

オーダー交換は男女ともに複、単別に行うものとし、複は試合開始時刻10分前、単は複の試合終了後、即座に行う。(オーダーを書き換える等の簡単な時間以外は認めない。) 出場選手は、オーダー交換の際には、「10.服装」の項目に従ったウェアを着用の上、集合・整列する。オーダー交換時に選手が欠けていた場合、その選手が出場する予定であった試合はDefとなる。

(3) 試合の順序

男女共に

複 第2位から順に第1位

単 第3位から順に第1位

注) 試合の進行状況によりコートレフェリーと両校の主将・主務の話し合いの上、試合の順序を変更することを認める。

(4) ウォームアップ

試合開始前のコート内でのウォームアップは10分以内とする。雨天により中断した場合、10分以内でのウォームアップを認める。日没などで中断し、日を改めて再開する場合も、10分以内のウォームアップを認める。

(5) ポイント間・セット間

選手は、各ポイント終了後25秒以内、コートチェンジの際は各ゲーム終了後90秒以内、セットブレイクの際は120秒以内にプレーを再開する。このことに対するペナルティは「17.ペナルティの基準」に準ずる。この時間はすべて主審が計るものとする。主審はコートチェンジとセットブレイクの際は残り30秒となったら「タイム」、残り15秒を過ぎてもベンチにいる場合は「15セカンズ」とコールする。

(6) 昼食

単のオーダー交換が12時を過ぎた場合、日没による順延を避けるため、昼食時間を認めない。

(7) 延期

対戦が終了しない場合は、コートレフリー及び両校主将・主務の話し合いの上、日時を決定する。サスペンドの内容（サービスサイド、ポイント等）はコートレフリーが記録する。尚、勝敗の決定した試合の延期は認めない。

(8) その他

- ・2チーム出す大学は、両チームにそれぞれ主将・主務・レフリーを選出する。
- ・試合中にコンタクトを落とした場合、探してつける時間を3分認める。探せる者は本人、ベンチコーチ、質疑権所有者のみとする。

6. コートレフリー

(1) 両校1名ずつコートレフリーを選出する。複数のオーダー交換の際、互いに紹介し確認する。

(2) コートレフリーは、本年度理工連盟登録者に限る。また、選手とコートレフリーを兼ねることはできない。ただし人数不足によって選出することができない場合のみ、選手とコートレフリーを兼任することを認める。この場合、レフリーが試合に入る際、1名代理人（これも本年度理工連盟登録者に限る）を出すことができる。代理人を立てることもできない場合は、相手校に相談の上、相手校レフリーのみで試合を行うなどの対応をとる。

(3) コートレフリーの仕事

- ①（ホームのレフリーのみ）定刻に開会式を行う
 - ②試合中のトラブルを解決する。（16. 「質疑・抗議」参照）
 - ③悪天候・日没による試合続行不可の判断を行う。
 - ④オーダー及び対戦結果を主催校に報告する。
- オーダー及び試合結果を、翌日午前9時までに指定されたフォームで送ること。本部に何か連絡する際には、両校のコートレフリー立ち会いの元行う。

(4) コートレフリーはあくまで中立の立場であることを尊重し、互いに協力して仕事を行い、規約・細則に明記された判断・判定を行う。

7. 雨天措置

(1) 試合開始・延期の判断は、コートレフリーと両校の主将・主務がオーダー交換の10分前に集まり決定する。ただし事前の話し合いにより、雨天判断などの時刻を決めている場合は、その時刻を優先する。

(2) 時間待ちをすれば試合続行可能と判断した場合、改めて全試合を消化できる範囲内で試合開始時刻を決め直す。

- (3) 試合中に雨天となった際、中止の時刻の決定は、コートレフリーが行う。
- (4) いずれの対戦も、雨天中止となった場合はオーダー交換はしない。

8. 日没の際の処置

- (1) 日没時刻は、当日の朝刊の新聞発表時刻を用いる。
- (2) 日没時刻以前の日没によるサスペンドは認めない。
- (3) 日没時刻以降については、両選手の同意によってのみ試合を続けることを認める。コートレフリーは両選手の同意を確認し、サスペンドの決定を行う。
- (4) 両校の同意があれば、ナイターの使用を認める。水没・日没試合の再開時刻は、両校のコートレフェリー・主将・主務が試合の進行状況から判断して決める。原則として翌日同校で行い、使用不可の場合のみ他コートでの再開を認める。

9. オーダー

- (1) オーダー用紙は、当連盟指定の用紙を使用し、毛筆又はペン書きとする。オーダー用紙はコピー（同倍率のみ）して使用することを認める。
- (2) オーダー順位以外の次の誤り、修正液を使用した場合や、第〇回戦、日付、正式学校名、部員などの書き間違い・欠落があった場合は、そのオーダー用紙に書かれた全てのポイントのコート・サーブ選択権及び1ゲームを失う。但し、オーダー交換後10分以内に抗議しなかった場合、承認したものとして試合は成立する。提訴は主将・主務が行うものとし、これらの処置は、相手校の主将・主務の提訴があった場合にのみ、コートレフリーが行う。
- (3) 「関東理工科リーグ戦規約」に記されている単・複の通常順位に違反した場合、試合成立後もそのポイントを無効とする。ここでいう「無効」とは違反した大学の所有ポイントが0扱いになるという意味であり、違反していない大学のポイントには影響しない。

10. 服装

- (1) 選手の服装は、襟付きと限定はしない。テニスウェアであれば色は問わない。その他ウォームアップ、トレーナー、スパッツ、帽子、バンダナ、リストバンドなどの色も問わない。
- (2) Tシャツでの試合（試合前のアップの時間も含む）は認めない。相手校の指摘があった場合正しい服装に着替えなければならない。指摘に応じなかった場合その選手を失格とする。但し、事前の話し合いで両校の同意があれば、この限りではない。
- (3) 応援者はテニスウェアを原則とし、Tシャツ・防寒具なども認める。カラーは問わない。
- (4) 試合中（試合前のアップの時間も含む）のウォームアップ類の着用は認める。

- (5) 審判・ベンチコーチの服装は、原則として選手と同様であるが、防寒具はカラーを問わず着用して良い。

11. 審判

- (1) 審判を出す順序

コート使用校：複1位 単3位、1位

相手校：複2位 単2位

注) いずれかの大学のコートが会場でない場合、コート使用校ではなくコート選択権所有校とする。

- (2) 副審を出す順序

主審を出す順序の逆とする。

- (3) 線審

両校話し合いの上、出すことを認める。

- (4) 審判は理工登録者が行う。但し、相手校または連盟が認めればその限りではない。

- (5) コール範囲

- ① 各審判の裁定部について

I. フットフォルト・ノットアップ・オーバーネット：主審

II. サービスのレット・タッチネット：主審または副審

III. (線審がいる場合) ベースラインのフットフォルト：線審
センター：主審

② オーバーコール・オーバールールは認めない。

③ フットフォルトは無警告で取る。

④ 主審はベースライン、主審側のサイドライン、センターラインをジャッジし、副審はサービスライン、副審側サイドラインをジャッジする。線審をつける場合、ベースラインは線審が見る。

⑤ ブラインドのジェスチャーがなされた場合、主審ならば副審、副審ならば主審にその判定を委ねることとする。但し、このジェスチャーがなされず後にになってミスジャッジの言い逃れとしてのブラインド等は認めない。

- (6) 主審の権利

主審は5.(5)で示した全ての権利がある。また、主審はコートレフリーを呼ぶ権利がある。

- (7) 審判の退場

ミスジャッジによりコートレフリーからクレームがあった場合、1回目を「警告」、2回目を「退場」とする。この際、ミスジャッジが故意であったかどうかは関係なく、退場した審判は応援できない。審判が退場となった場合、次の代わりの審判が入る際は、相手校から審判を選出することとする。

12. 売權・リタイヤ

- (1) 負傷（捻挫、外傷等）・筋肉痙攣・その他偶発的な事故の場合、3分間の治療時間（メディカルタイムアウト）を1箇所につき1回、筋肉痙攣の処置は1回に限り認める。再開できない場合は棄權とする。治療はコート上で行うものとし、コート内には本年度理工連盟登録者のみとし医師は入れない。これに違反した場合、選手は失格となる。
- (2) 治療中のアドバイスは禁止とする。この際、コートレフリーは必ず治療に立ち会い、治療時間3分の計測とアドバイスの監視を行う。3分経過後の時間はポイント間とみなし、主審が計るものとする。自然的体力消耗（痙攣、肉離れ等）の治療は、自分によるストレッチのみ認め、他人による治療は一切認めない。これに違反した場合、選手は失格となる。また、試合の中止も一切認めない。

13. ベンチコーチ

- (1) ベンチコーチは本年度理工連盟登録者のみ行うことができる。
- (2) ベンチコーチは各コート1名までとする。交代の際は、1人がベンチから離れてから次の人に入ること。
- (3) ベンチコーチは、むやみにその場を離れたり、コート内に入ったりしてはいけない。応援は拍手のみとし、発声は認めない。
- (4) (2)、(3)に違反した場合、コートレフリーがベンチコーチに、1回目は「警告」、2回目はその試合のベンチコーチをなし、という判断を下す。
- (5) ベンチコーチ以外の人は、選手にコーチングやアドバイスをしてはならない。また、ベンチコーチもコートチェンジの際以外にはコーチングやアドバイスをしてはならない。これらに違反した場合、コートレフリーが当該選手に対してポイントペナルティ制度を適用する。

14. ボールパーソン

- (1) 本年度理工連盟登録者が行う。
- (2) 有無・付け方は両校の主将主務会議で決定する。
- (3) ボールパーソンは中立であり、応援できない。これに違反した場合、コーチングとして当該選手にコードバイオレーションが適用される。
- (4) ボールパーソンのボールの取り合いは禁止とし、あまりに酷い場合コートレフリーは「警告」し、2回目にはそのボールパーソンを退場とする。
- (5) ボールパーソンの服装は、選手と同様とする。但し、ウォームアップの着用は認める。

15. 応援

- (1) 応援は試合の進行を遅らせないように注意して行う。
- (2) 相手選手に対するものは全て禁止とする。即ち、応援とは試合を盛り上げ、自校の選手を勝利に導くものであり、相手選手を野次するためのものではない。よって、声を上げ、罵声を発し、ジェスチャー・器具を用いて相手校、相手選手、審判等の心理を錯乱させるような行動及びプレーを妨げる行為をしてはならない。
- (3) 男子部の者が女子部の者、女子部の者が男子部の者の応援をする場合は、相手校の許可を必須とする。但し、女子部が連盟に登録されておらず、男子部の中に女子部が存在する場合、その女子部員は男子部員とみなす。
- (4) 野次・暴言等の不正な応援に対する処分
 - 1回目：学校全体に対する処分
 - 2回目：不正な応援をした者が退場。不明の場合、その面の選手に対してポイントペナルティー制度を適用する。
- (5) コーチングやアドバイス的な応援に対する処分
 - 当該選手に対してポイントペナルティー制度を適用する。
- (6) 以上(4)(5)の処分はコートレフリーが客観的に判断して行う。尚、その行為が故意でないにしても同様である。
- (7) コートの広さや環境に応じて、1面あたりの応援人数を制限する。人数制限は各大学により異なるので、試合前の主将主務会議で決定する。

16. 質疑・抗議

- (1) 試合についての質疑は、本細則に基づきコートレフリーが処理する。
- (2) 選手
 - 選手は、質疑に関する権利を有さない。但し、質疑を行う際、コートレフリーに状況説明をすることは認め、それ以後の質疑には加わらない。
- (3) ベンチコーチ
 - ベンチコーチは、選手の要請でコートレフリーを呼ぶことができる。また、相手校の応援その他で質疑・抗議がある場合もベンチコーチがコートレフリーに申し出ることができる。その場合、必ず主審にその旨を伝える。セルフジャッジの場合はこの限りではない。但し、選手と同様、質疑に関する権利も有さない。
- (4) 主審
 - 主審は、ベンチコーチがコートレフリーを要請した場合、試合進行上支障がなければコートチェンジの際に、コートレフリーの質疑の対応ができるようにしなければならない。但し、ポイントの判定に関わる場合は、即時コートレフリーを呼ばなければならない。
- (5) 質疑権所有者

質疑権所有者は、各校主将・主務両方にある。主将・主務が同時に試合に入る可能性がある場合、1名代理人（本年度理工登録者のみ）を出すことができる。代理人を出す場合はその旨をコートレフリーに報告する。尚、ここで言う主将・主務は当日朝の主将主務会議でお互いに紹介した者を指す。質疑権所有者は、オーダーに対する質疑、試合進行に関する問題の質疑、または相手校の応援等に対する質疑をコートレフリーとともにに行うことができる。但し、プレーや審判の判定に対する質疑には加わらず、コートレフリーに任せるものとする。

17. ペナルティーの基準

（1） タイム・バイオレーション（非累加ポイントペナルティーシステム）

I. 違反事項

- ① ウィームアップの時間経過後、“20 seconds to play”の指示から 20 秒以内に試合を始めない。
- ② 25 秒、90 秒、120 秒ルールの違反

II. ペナルティー

前項の違反に対するペナルティーは、次の通りとする。

1回目：警告 2回目以降：違反ごとに 1 ポイント

（2） コード・バイオレーション（ポイントペナルティーシステム）

I. 違反事項

- ① 理由のないゲームの遅延
 - 1) “let's play”の指示から 20 秒以内に試合を再開しない。
 - 2) 負傷による中断後、“20 seconds to play”の指示から、20 秒以内に試合を再開しない。
 - 3) 自然体力消耗に陥って、試合の続行ができない。

② みだらな言葉・態度

③ みだらな言葉・態度

④ コーチング

⑤ ボール、ラケットなど用具の乱用

⑥ 言葉、態度での侮辱

⑦ その他スポーツマンシップに反する行為

⑧ プレーを妨害するような応援

II. ペナルティー

前項各号の違反に対するペナルティーは、次の通りとする。

1回目：警告 2回目：1 ポイント 3回目以降：違反毎に 1 ゲーム

18. 語句

（1） 退場

退場となった者は、それ以降の当該 1 対抗戦の試合に関する全ての権利を失う。

- (2) 両校の同意とは、必ず試合が始める前までに行うものとし、一度同意された事項はそれを取り消すことに関してさらに両校の同意を必要とする。再度同意を行う際には、その事項がどの試合に対しても有効なのかをはっきりさせ、コートレフリーが必ず立ち会いその内容、時間を記録しておく。

19. スマートウォッチ

コーチング等の観点から、JTA ルールブックの記載に準じ、原則禁止とする。指摘されても外さない場合、1 回目までは警告、2 回目からはポイントペナルティの対象となる。